

第3期桑名市地域福祉計画策定第1回市民会議

## 第3期地域福祉計画の構想

経済よし、財政よし、社会よし。

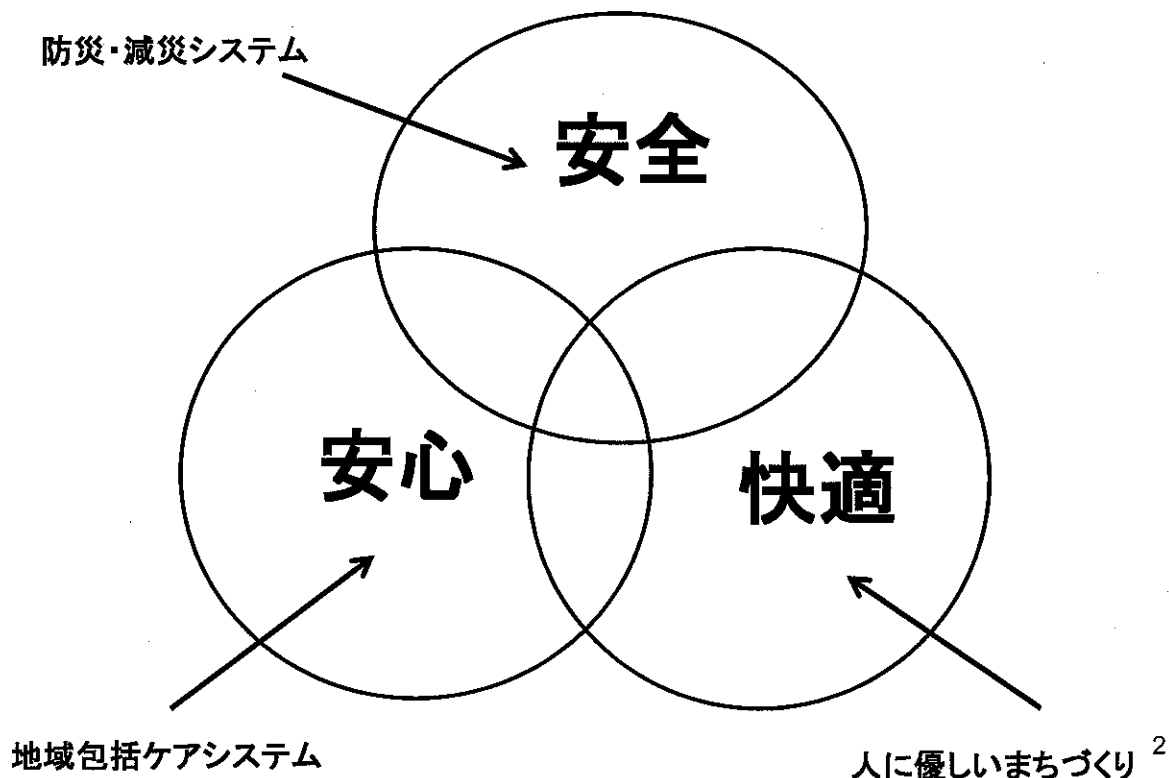
2013年6月1日  
桑名市総合福祉会館

野口定久  
(日本福祉大学)

1

### 居住福祉社会の実現

誰もが、住みたいところで、安全で安心して快適に暮らせるまちづくり

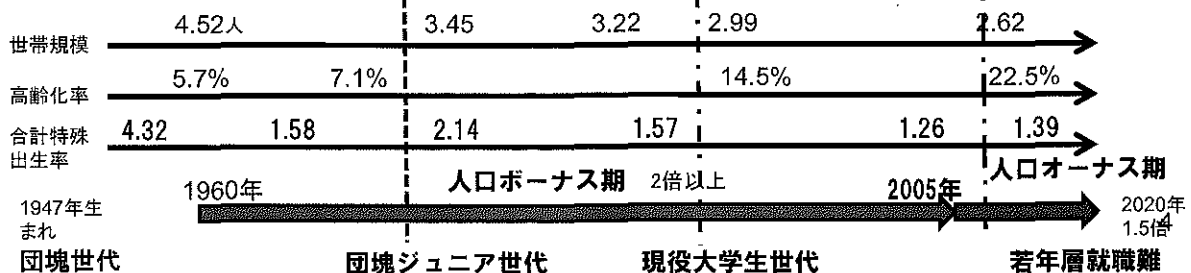
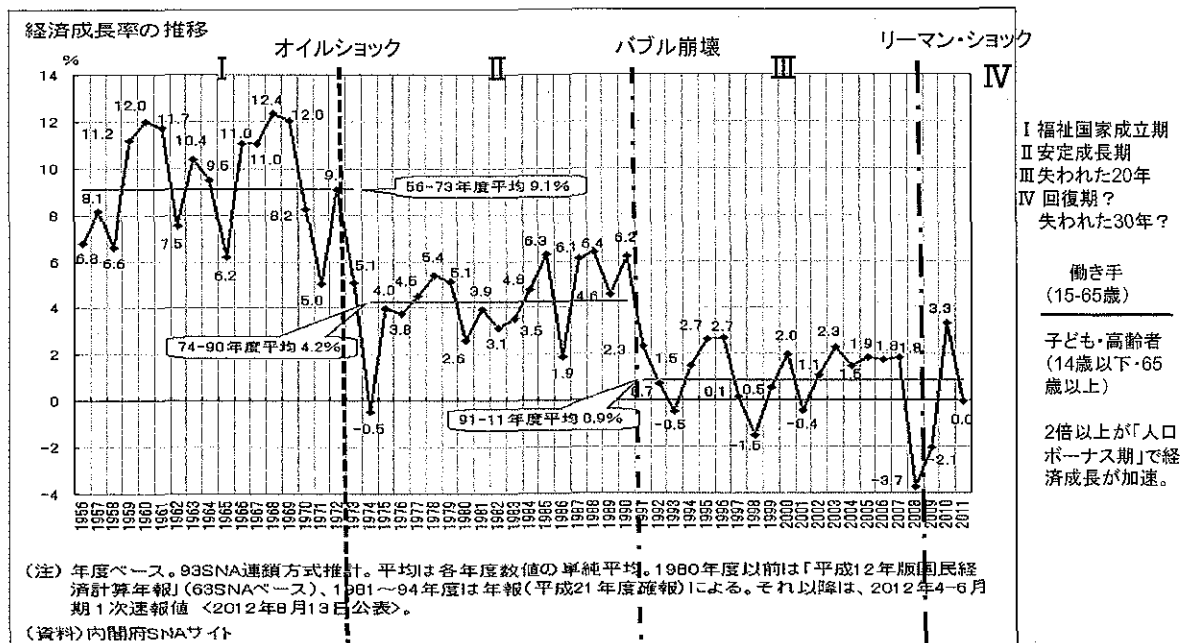


# 超高齢・少子・人口減少社会の到来

## — 家族・地域社会に及ぼす影響

- \* 高齢社会⇒福祉サービス市場の拡大 経済社会の需要構造の変化
- \* 新しい世代ほど縮んでいく縮小再生産社会
- \* 多くの分野で後継者確保や技術・文化の継承が困難
- \* 働き手人口が減少、高齢者に働き手としての役割。
- \* 高齢人口の増加率 大都市圏で高く、今後急増。地方圏 生産年齢人口や年少人口の激減が顕著。
- \* 地域社会存立の基礎的要件である人口の激減。自治体の持続可能性をも脅かす。

3



## 都市の高齢化に備えよ

\* 問題はこれからだ

- ・75歳以上人口 2010年 1400万人超 2030年 2270万人
- ・認知症高齢者の増加、単身高齢者世帯の増加
- ・介護が必要な人を財政的にどう支えるか、介護現場で働く人材の確保

\* これからの高齢化は都市部で急速に進む

⇒これまでの高齢化 地方が中心

⇒老夫婦二人世帯 単身世帯が増加 介護施設への需要は高まっているが、都市部での建設は進んでいない

\* 都市部の高齢者 高度経済成長期以降にふるさとを後にした元サラリーマン家庭が多く、地縁も弱い。夫婦のどちらかが病気なったり、一人暮らし 孤立しがち⇒終の棲家

⇒公的サービスの充実 定年後の高齢者が活躍できる場を用意、見守りネットワークや食事サービスを充実などの仕組み

\* 安心して暮らせる「居場所」と「出番」の確保

5

## 第3期桑名市地域福祉計画の構図(案)

■地域福祉計画の理念－成長型社会から成熟型社会へ

健康福祉でまちづくり

安全・安心・快適に暮らし続けることのできるまち くわな

■重点目標と課題

(1)「地域包括ケア」と「防災」のシステムを組み合わせる

- ・中学校区に地域包括支援センター
- ・地区ごとの健康福祉活動の推進(健康体操の普及)
- ・平時における災害避難、救助の備え(備えあれば憂いなし)

(2)「居場所」と「出番」の機会を創出する

- ・「信頼」と「絆」の強化
- ・地区単位でサロン活動の推進(居場所づくり)
- ・一人ひとりの「出番」の機会

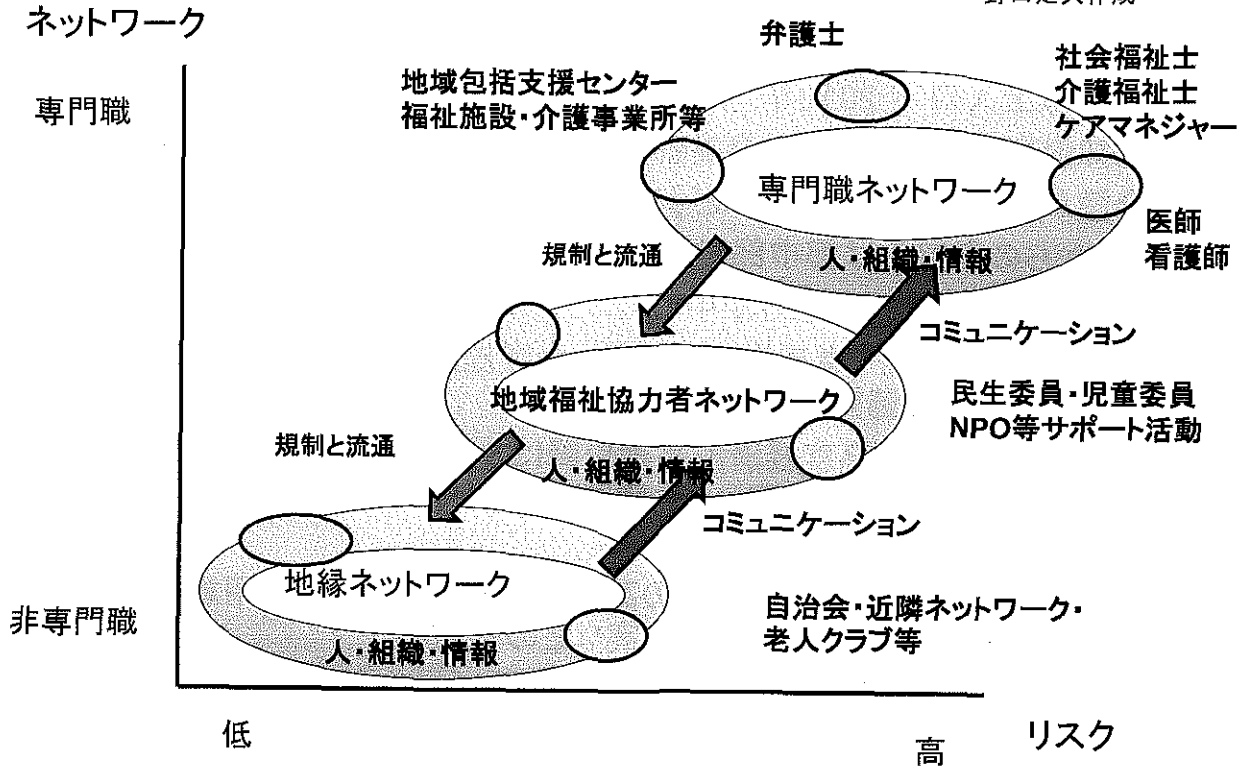
(3)「健康」と「地域文化・資源」を結び付けて、新たな雇用と需要を起こす

- ・「健康」と「観光」ツーリズム(歴史探索を活用した健康増進プログラム)
- ・「健康」と「福祉」ツーリズム
- ・「健康」と「資源」のコミュニティビジネス

6

地域包括ケアシステムにおけるネットワークとコミュニケーションの理念型

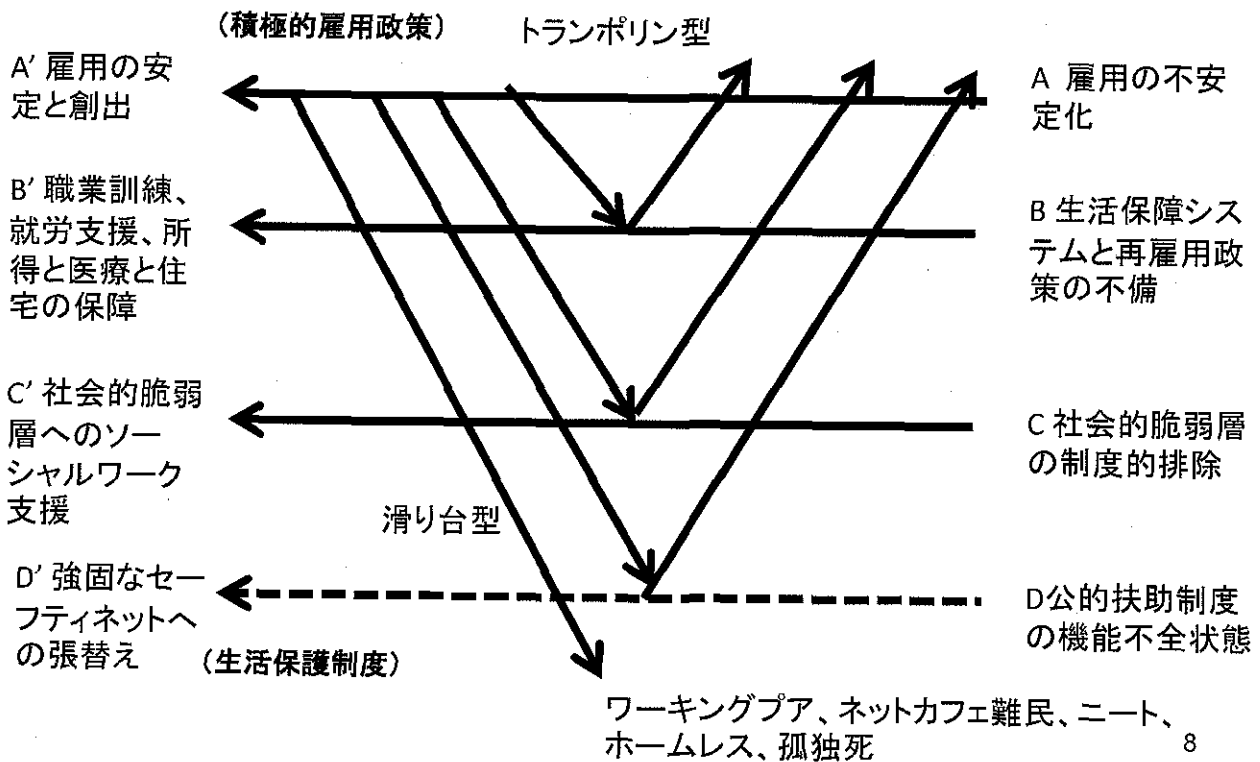
野口定久作成



7

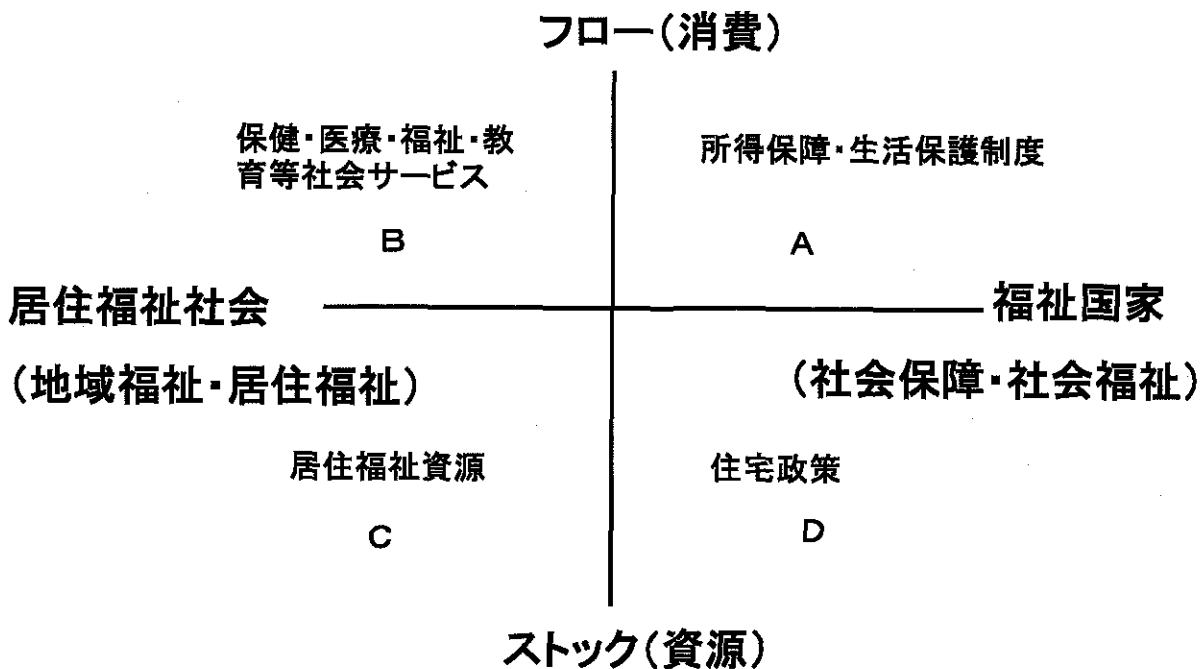
地域生活保障システムとセーフティネットの張替え

野口定久作成



8

## 居住福祉社会の構図ーフロー・ストックのマトリックス



野口定久作成

9

## 居住福祉コミュニティとは

- 福祉コミュニティ付き包摂型住宅(ストック)
  - + 医療・福祉・介護・教育サービス(フロー)
  - + 専門職(ソーシャルワーカー等)
  - + 見守り支援(ソーシャル・サポート)
  - + 社会的企業(ソーシャル・ビジネス)
  - + 住民参加と協働のシステム(ローカル・ガバナンス)
- = 居住福祉コミュニティ

10

## 居住福祉のコミュニティと街(まち)づくり

- \* 居住福祉コミュニティの実現⇒経済だけでなく、生活や文化などそれぞれが持つ伝統的なものと新しいものとの融合した総合的な魅力を発揮した街づくり
- \* その街には、文化や自然に加え、まちとしてまとまりがあり、住みたくなるような環境があり、住む人にも、訪れる人にも優しいまちづくりを進めていることが共通点
  - ・レトロの街並み(会津若松、豊後高田、飛騨高山、奈良町など)
  - ・古い門前町の街並みと昔ながらの多彩なイベント(巢鴨地藏通り商店街、名古屋大須商店街など)といった潤いの街並み景観
- \* 集客力のある街のもう一つの共通点は、高齢者や障害者等社会的弱者に優しいということ
- \* 居住福祉コミュニティ⇒人々が誇りを持って、そこで住みたい、働きたい、暮らしたい街や福祉コミュニティを創造すること。それには、公共政策としての居住福祉・地域福祉が不可欠

11

## 第3期地域福祉計画推進のために 伊藤市政 7本の矢

1. 中央集権型から全員参加型
2. 納税者の視点で次の世代に責任ある財政
3. 命を守ることが最優先
4. こどもを3人育てられるまち
5. 世界に向けて開かれたまち
6. 地理的優位性を活かした元気なまち
7. 桑名をまちごと「ブランド」に

12

## まとめ

○住民参加と協働による地域福祉計画づくり

○「三方よし」のまちづくり

—経済よし、財政よし、社会よし。

○安全・安心・快適のまちづくり